

せみがおとなになる時

みなさん、せみの赤ちゃんはどこにいるか知っていますか？

せみのあちゃんは土の中にいるんですよ。

土の中で土のお布団を着て、雨のごちそうや木の根っこのおちちをのんでいるのです。

そして、六年も七年もかかって赤ちゃんはせみになるのです。

せみの子どもは土のおじさんにおれいをいいました。

「長い間、家をかしてくださってありがとう。僕はこんなに大きくなってこんやは家を出るのです。」

「そうか、もう六年もたったのかね。気をつけていきなさいよ。」

土のおじさんはやさしく言いました。

せみの子どもは、のそりのそり、ほそながい土のあなをとおって上がっていきました。

夜です。森が見えました。

森のむこうに、お月様が出てきました。

「お月様どうかみていてくださいな。ぼく着物をぬいで上手に大人になるんですよ。」

せみの子どもは、

「どっこいしょ」と

あなから外にはい出して木の上へのぼっていきました。

あつ、すごい。

せみの子どもの茶色のかたい着物がせなかのところまで二つにわれました。頭も胸も、薄いきれいな色です。足が出るとせみはくるつとさかさになって、上手に茶色い着物をぬぎました。

体もぐんぐんのびて黒い色にかわりました。

せみは大人のせみになったのです。

「おう、せみくんよくやったえらいねえ」

森が明るくなりました。

あさです。

せみは新しいじょうぶな羽を広げて力いっぱい立ちました。

みーん、みーん、みーん、せみはうれしくてたまりません。

せみは大きな声で歌いながら、まっすぐになかまの声のする森のほうへ飛んでいきました。

「あつ。」

かわいそうに、せみはくものすにかかってしまいました。

「ああ、手も羽もうごかない。こまったな。こまったな」

いくらがいてもせみはとぶことができないのです。

そこへのそり、のそり、くもがやってきました。

「ははは、うまそうなあさめしだ。せみくん、さあ、たべてやるぞ」

「いやだよ。いやだよ。くもさんたすけておくれ。」

「あははは、だめだめ」

「くもさん、ぼくは長いあいだ土の中にいてやっとそとにでたんです。

まだ、ちょうちよや花ともおともだちになっていないんです。

おねがいですからたけてください。どうかたすけてください。」

「だめだめ」

くもはとびかかろうとしました。

この時、一人の子どもがはしってきました。

「あつ、せみさん、今、たすけてあげるよ。」

子どもはあしもとからぼうをひろって

「こらっ、いじわるくもめ、おとなしいせみさんをいじめたりするとしようちしないぞ。」
くものすをはらいのけて、せみをたすけてくれました。

「しんせつなぼっちゃん、ありがとう、ありがとう。」

「さよならーせみさん、さよならー」

森には花がさいてちようちよがとんでいました。

なかまのせみもみんな楽しそうにないていました。

みーん、みーん、みーん。